

「北海道 150 年事業基本方針（原案）」への意見募集結果

平成 28 年 10 月 19 日

「北海道 150 年事業基本方針（原案）」について、道民の皆様などからご意見を募集したところ、11 名及び 4 団体から、延べ 20 件のご意見が寄せられました。（意見募集期間：平成 28 年 8 月 9 日（火）～平成 28 年 8 月 31 日（水））

ご意見の要旨及びご意見に対する北海道 150 年道民検討会議事務局の考え方は次のとおりです。

＜ご意見に対する考え方の区分＞

A	意見を受けて案を修正したもの	4
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの	5
C	案を修正していないが、今後の検討の参考とするもの	8
D	案に取り入れなかったもの	2
E	案の内容についての質問等	1

ご意見の概要	ご意見に対する考え方
II.北海道みらい事業（5 頁）	
<ul style="list-style-type: none"> ● 「北海道」の見つめ直しと継承 ・ 開拓期の歴史（お雇い外国人や移住者の視点等）の情報発信 <p>平成 3 年～4 年にかけて、NHK で放送されたドラマ「新十津川物語」の再放送。本テーマである開拓の歴史を伝えるための情報発信媒体として、有効な手段である。</p>	<p>A</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、5 頁の北海道みらい事業の個別事業例「● 「北海道」の見つめ直しと継承」に、「・偉人にまつわる映画・ドラマ等の活用」を追記しました。</p>
III. 関連推進施策（7 頁）	
<p>道民生活に深く関わる道有財産の維持管理施策・事業も盛り込むべき。</p>	<p>D</p> <p>北海道 150 年に限らず、適切に取り組むべき施策であり、今後の道政運営の参考とさせていただきます。</p>
<p>人材育成事業は、対外的に活躍する人材に限らず、地域課題の解決に資する人材の育成も必要。また、人材育成の対象は若年層にとどまらず、中高年層にも拡大して生涯現役社会を目指すような施策を展開すべき。</p>	<p>C</p> <p>今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>
<p>北海道は、国土領海、自然環境、人材知見をはじめ豊かな資源に恵まれている。足りないのは【長期のビジョン】と【変革への覚悟】ではないか。開道 150 年を機に、恒常的な【開道 200 年（2068）プロジェクト】を立ち上げ、誰もが住みたくなり旅したくなる、生産性と幸福度の高い、北海道の創生に着手することを提案する。</p>	<p>C</p> <p>今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>

ご意見の概要	ご意見に対する考え方
事業アイデア等	
<p>松浦武四郎の北海道探索の道筋や島義勇たちが函館からたどった道筋をいま一度明らかにするため、舞台やドラマ・映画などを制作して欲しい。</p>	<p>A</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、5頁の北海道みらい事業の個別事業例「●「北海道」の見つめ直しと継承」に、「・偉人にまつわる映画・ドラマ等の活用」を追記しました。</p>
<p>松浦武四郎の生誕200年、北海道150年に向けた武四郎のドラマ化実現に努力すべき。</p>	<p>A</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、5頁の北海道みらい事業の個別事業例「●松浦武四郎関連事業」に、「・映画化・ドラマ化」を追記しました。</p>
<p>北海道150年事業として、将来、世界を担う若者を北海道に参集してサマーセミナーを開催することを提案する。</p> <p>若い時に北海道（日本）の文化、風土に直接触れ、自分の目で見ることにより北海道（日本）のよき理解者になり、それぞれの立場で北海道の魅力を世界に発信することも期待できる。</p>	<p>C</p> <p>今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>
<p>医療観光は今の中国ではとても需要がある。爆買いが終わりそうになってきた今だからこそ、観光資源として必要だと思う。観光は浮き沈みが大きいので、中国だけではなくアジアなどの観光客の国々の社会保障を兼ねた医療観光は、一つの国が来てくれなくても安定的に観光事業が続く。</p>	<p>C</p> <p>今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>
<p>心が辛い人達の療育にかねて、捨て犬、捨て猫の支援の就労支援ができたかと考えている。癒しの観光として、見える観光資源だと思う。</p>	<p>C</p> <p>今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>
<p>北海道150年文庫の編纂を提案する。</p> <p>北海道150年事業は、北海道のこれまでを受け継ぎ、次の100年150年に受け継ぐことが理念。時系列は、アイヌの歴史、江戸末期から明治期、対象、昭和終戦前、終戦後、そして未来へのシーズ。基本テーマは「北海道の人々の営みと北海道の自然」1テーマ一冊として順次刊行。</p> <p>名称は「北海道歴史未来文庫」。各巻のテーマとエピソードは広く公募とする。</p> <p>一冊は20頁程度の読みやすい分量とし、専用WEBサイトを設置し自由に閲覧できるとともに、国内外から各エピソードに関する情報提供を求め、エピソードを深化させる。</p>	<p>C</p> <p>今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>

ご意見の概要	ご意見に対する考え方
事業アイデア等	
<p>北海道には北海道なりの和人と蝦夷=アイヌとの「共存」と「争い」の長い歴史があるが、道民は「北海道には歴史がない」といつて明治維新以前のことをあまり知らない。そんな状態では歴史や文化を次世代に伝えることはできない。そのため、「記念セレモニー」企画ベースに、「歴史から未来を学ぶ」コンセプトで「市民カレッジ」の拡大版のようなシンポジウムを開催したらよいのではないのか？時系列ではなく、テーマ別にして全10回ぐらいのシリーズとし、これまでの歴史と今の北海道の文化や産業などとリンクさせるような内容をテーマとして開催し、道民は深い歴史を理解し、今まであやふやだった道民としてのアイデンティティを持ち、北海道に根差した未来へヒントを見つけるためのスタート地点に立てるのではないのか？それがあれば他の「記念セレモニー事業」への理解度も増し、「北海道みらい事業」は未来へのヒントを発展させる事業となり、「関連推進事業」は150年事業のレガシーになるという流れにすることが出来ると考える。そう考えると、幕末の人間である松浦武四郎がキーパーソンにしすぎると、取り上げる北海道の歴史幅を狭めてしまうことを懸念する。またアイヌ文化推進は、やりたい人だけがやるような事業とした方がよいと思う。北海道の代表的な文化と位置づけ、道民全体で推進するような流れは、自分のルーツではない文化であるため抵抗を感じる。</p>	<p>A</p> <p>ご意見の趣旨を踏まえ、4頁の記念セレモニーの関連する企画等「●フォーラム・シンポジウム」に、「・歴史から未来を学ぶ（テーマを設定したシリーズもの）」を追記しました。</p> <p>その他の視点についても、今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p> <p>また、松浦武四郎以外の北海道の偉人たちを見つめ直したり、開拓期の歴史の情報発信などの取組についても検討していくこととしています。</p>
<p>「北海道」の開基以来、北海道の産業・生活文化および北海道らしい景観形成の発展に寄与してきた出来事に「牧畜・酪農文化の展開」が考えられる。</p> <p>北海道150年の歴史の中で、一時は北海道の広範囲にわたり展開していた牧畜・酪農産業の足跡を、次の3つの視点から取り上げるアイデアを提案する。</p> <p>①歴史的視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道における牧畜・酪農産業の発展 ・大学機関と民間酪農家 ・北海道庁の各農場施設 <p>②食文化の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳と牛乳の加工品 ・北海道産のいろいろなチーズ ・健康食品としての乳製品 <p>③景観的視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイロについて（模型をつくる） ・腰折れ屋根（ギャブル屋根）畜舎について（精巧な模型をつくる） ・北海道らしい酪農景観の観光への活用 <p>EX.酪農景観めぐり、フットパス、乳製品やチーズ料理を食べる</p>	<p>C</p> <p>今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>

ご意見の概要	ご意見に対する考え方
<p>事業アイデア等</p> <p>現在2年に一度行われている「開拓神社大みこし渡御」は、以前は3年に一度大みこしをクレーンとトラックで開拓神社から三越前まで運び、三越前からすすきの交差点前までの間を道内外の神輿会の担ぎ手によって渡御していた。</p> <p>和っしょい北開道は、平成16年に故坂本眞一氏（元JR北海道会長）が中心となって結成され、それまでみこしに触ることさえ難しかった一般市民にみこし渡御に参加する道を開いた。</p> <p>まつりとみこしには人と人とをつなぐ力がある。とりわけみこしを担ぐと、自ずと担ぎ手に感謝する気持ちが沸き上がる。また、みこしを曳き、担ぎ、みこしに触れることは、先人の不屈の努力に思いをはせる機会になると考える。</p> <p>北海道150年は、知事が仰っているとおり、道民が「先人が積み重ねた努力・歴史を振り返り、次の50年につなげる」スタートを切る年になる。北海道がこれまでも、そしてこれからも、人と人とのつながりがどこよりも強い大地として発展するために、「開拓150年記念大みこし渡御」を実現したいと考えている。</p> <p>みこし渡御当日の夜には、「開拓150年記念大花火大会」も開催してはどうかと考えている。</p> <p>150年の節目の「開拓150年記念大みこし渡御」と「大花火大会」を開拓以前からの先人であるアイヌの人たちとともに祝いたいと考えている。和っしょい北開道は北海道の未来が世界に誇りうる信頼と感謝に満ちた人がつながる力にあふれた大地となるために全力を尽くす。</p>	<p>B</p> <p>4頁の北海道みらい事業の個別事業例「●「北海道」の見つめ直しと継承」に、「・地域のお祭り等の活用」と記載しているとおり、地域のお祭りなどの活用は重要であると考えており、今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p> <p>なお、記念セミナーの関連企画としても、お祭りの要素について検討していくこととしています。</p>

ご意見の概要	ご意見に対する考え方
<p>その他</p> <p>北海道150年に向けて、道民の意見の集約は、道と道民が共に取り組める最初の機会として大変意味のあることだと感じたが、一つ疑問に感じる点は、意見集約の実施や、基本理念の「自分達の力で創っていく気概を持ち」という意識が道民にどこまで伝わっているのかという点。</p> <p>これから取組が具体的になっていく中で、北海道を愛する多くの方が関心を持ち、自ら参加するためにも、現時点での種まき（発信力の強化）や様々な企業・団体との連携が必要不可欠だと感じている。</p> <p>道民がより参加しやすく、一人ひとりが北海道のことを考える機会をさらに多くの人たちを巻き込んで取り組んでいくことが大切なのではないか。</p>	<p>B</p> <p>「道民一体」となって進めていくために、事業の基本理念やテーマはもちろん、具体的な内容にも関心を持って頂き、さらには事業に参加して頂くため、情報発信は重要であると考えています。</p>
<p>北海道は日本の食料基地としての役割を果たしている中、「食・観光」に関する取組を重要視すべきではないかと思われる。</p> <p>また、150年の歴史の中で培ってきた食の歴史はもとより、未来に貢献する事業へのサポートや支援の拡充が最も必要ではないか。</p>	<p>B</p> <p>北海道の食や観光の磨き上げは重要であると考えていることから、北海道みらい事業などで取り組むことを想定しています。また、これらの事業に対する具体的な支援についても、今後検討していくこととしています。</p>
<p>事業案は「何をもち」基本理念・テーマ・姿勢のベースとしているのか、明確ではない気がする。</p>	<p>E</p> <p>記載している事業案は、道民検討会議の議論等を踏まえて記載しており、今後、基本方針の基本理念等を踏まえて具体的な事業計画を検討していくこととしています。</p>
<p>私は2018年から東京オリンピック2020までの3カ年を「北海道みらい事業」の実施期間に位置付けてはと提案する。基本姿勢の「未来志向」「価値創造」「道民一体」にはそれなりの時間がかかるのと、「世界の中の北海道」という視点は観光はじめ、これからの北海道にとっては欠かすことの出来ない方向性。とすれば2019ラグビーワールドカップは北海道にとって重要な交流機会を生む。ラグビー強豪国はいずれもバードウォッチングやアウトドアの盛んな国々であり、札幌予選の来客を探鳥ツアーで道東へ。北海道の鳥タンチョウをシンボルに北海道をアピールする絶好の機会である。</p>	<p>C</p> <p>北海道命名150年の2018年をマイルストーン（＝通過点の節目）として捉える趣旨から、「北海道みらい事業」は2018年に実施することとしています。また、継続的に取り組む施策等については「関連推進施策」として取り組むこととしており、東京オリンピック・パラリンピック関連の取組も想定しています。なお、視点については、今後の具体的な事業の検討に当たって、参考とさせていただきます。</p>

ご意見の概要	ご意見に対する考え方
その他	
<p>特に人材育成事業の分野では知事部局と道教委の間で縦割りが生じやすいため、しっかりと連携して取り組んでいただきたい。</p>	<p>B</p> <p>事業の展開に当たって、道庁内のみならず、関係する主体が関係を図り「道民一体」の姿勢で進めていくこととしています。</p>
<p>北海道議会庁舎の建て替えが検討されているが、道民の間では建て替えの是非について異論もあることから、本事業を政治利用して建て替えを正当化したり、カモフラージュするようなことは控えていただきたい。</p>	<p>B</p> <p>本事業では、北海道命名 150 年を節目と捉え、本道の歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民が一体となって祝い、未来を展望しながら次の 50 年に向けた北海道づくりに継承していきます。</p>
<p>北海道新幹線ルートについて 【提案】 新函館北斗－七飯大沼－鹿部－室蘭－苫小牧－千歳－札幌 (噴火湾海底トンネル)</p>	<p>D</p> <p>今後の道政運営等の参考とさせていただきます。</p>